

# 第32回環境情報科学 学術研究論文発表会

ー 同時開催 第15回環境情報科学ポスターセッション ー

日時：2018年12月17日（月）8：55～19：00（受付開始 8：30）

会場：日本大学会館大講堂ほか  
〒102-0074 東京都千代田区九段南4丁目8番24号 TEL. 03-5275-8110

- 内容：・環境科学に関する研究論文発表 57 題（内 口頭発表 50 題・ポスター発表 7 題）  
・環境科学に関するポスターセッション約 50 題  
・会員からの公募による企画セッション（4セッション）：  
①再生エネルギー100%社会の実現に向けてー世界の動向と日本の取り組みー  
②SDGs の地域社会との接合可能性を探るーマルチステイクホルダー・パートナーシップの観点から  
③海洋資源開発における海洋環境影響評価  
④アジア地域の持続可能な社会形成の法政策制度とその社会実装に向けてーCCS を事例としてー  
・一般公開シンポジウム「第5次環境基本計画の策定等を踏まえた持続可能な開発目標（SDGs）の達成への取組と環境研究からの貢献」  
・研究者交流会（優秀ポスターの表彰ほか）

参加費：正会員・賛助会員 2,000 円 準会員 1,000 円 非会員一般 3,000 円 非会員学生 1,500 円  
（ただし シンポジウムのみ参加は参加費無料。その場合、開場受付 14：45～）

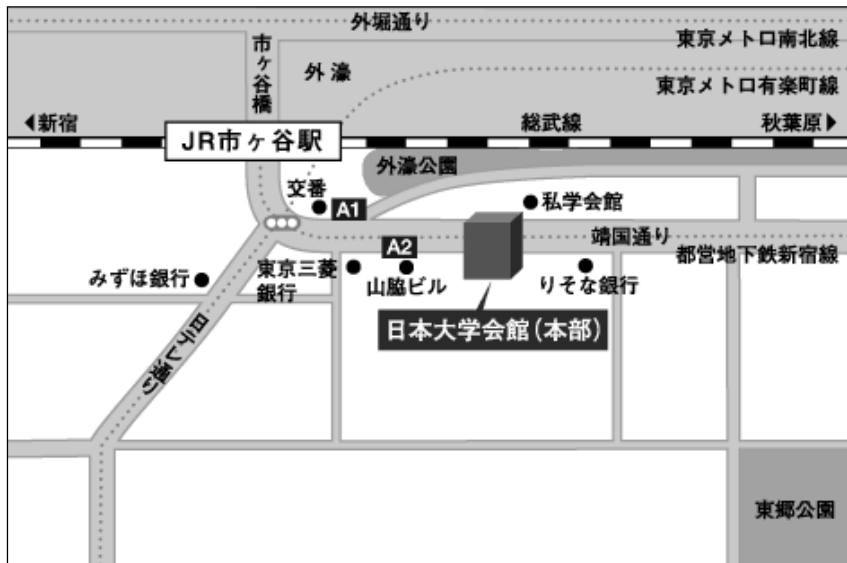
※研究者交流会参加費（希望者のみ）：

正会員・賛助会員 3,000 円 準会員 2,000 円 非会員一般 4,000 円 非会員学生 2,500 円

## ◆問合せ先（事前申込不要）◆

一般社団法人環境情報科学センター 事務局  
〒102-0074 東京都千代田区九段南3-2-7いちご九段三丁目ビル  
TEL: 03-3265-3916 FAX: 03-3234-5407 E-mail: member-jimukyoku@ceis.or.jp  
URL: <http://www.ceis.or.jp/>

## ◆会場地図◆



（日本大学ホームページより転載）

## 【交通】

JR 市ヶ谷駅下車 徒歩2分、東京メトロ・都営地下鉄 市ヶ谷駅下車 徒歩2分

第32回 環境情報科学 学術研究論文発表会 全体プログラム

※収容人数

	A会場(大講堂) ※約200名	B会場(大講堂) ※約100名	C会場(204会議室) ※約30名	D会場(203会議室) ※約40名	E会場(201会議室) ※約20名
8:30	受付開始				
8:55	開会挨拶(論文審査委員長)				
9:00	<b>論文発表</b>  <論文口頭発表> 発表セッション① 「都市・地域環境」  9:00~10:30		<b>論文発表</b>  <論文口頭発表> 発表セッション② 「景観」 9:00~10:00	<b>論文発表</b>  <論文口頭発表> 発表セッション⑥ 「環境教育・市民参加」  9:00~10:30	<b>論文発表</b>  <論文口頭発表> 発表セッション⑦ 「レクリエーション・観光」 9:00~10:00
9:15					
9:30					
9:45					
10:00			<b>論文発表</b>  <論文口頭発表> 発表セッション③ 「気候変動・エネルギー」 10:00~11:00		<b>論文発表</b>  <論文口頭発表> 発表セッション⑧ 「環境心理」  10:00~12:00
10:15					
10:30					
10:45					
11:00	<b>企画セッション</b>  企画セッション① 「再生エネルギー100%社会 の実現に向けてー世界の動 向と日本の取り組みー」  11:00~12:30	ポスター発表・ポス ターセッション  ○論文ポスター発表(7題) ○環境情報科学ポスター セッション(約50題)  ***** ※質疑応答:11:45~13:45 ※ポスター展示時間: 11:00~14:30	<b>論文発表</b>  <論文口頭発表> 発表セッション④ 「地域・制度設計」  11:00~12:30	<b>企画セッション</b>  企画セッション③ 「海洋資源開発における海 洋環境影響評価」  11:00~12:30	
11:15					
11:30					
11:45					
12:00					
12:15					
12:30					
12:45					
13:00					
13:15	<b>企画セッション</b>  企画セッション② 「SDGsの地域社会との接合 可能性を探るーマルチステ イクホルダー・パートナーシ ップの観点からー」 13:15~14:45		<b>論文発表</b>  <論文口頭発表> 発表セッション⑤ 「生態系・水環境・熱環境」  13:15~14:45	<b>企画セッション</b>  企画セッション④ 「アジア地域の持続可能な社 会形成の法政策制度と その社会実装に向けてー CCSを事例としてー」  13:15~14:45	<b>論文発表</b>  <論文口頭発表> 発表セッション⑨ 「地域・農村」  13:15~14:45
13:30					
13:45					
14:00					
14:15					
14:30					
14:45					
15:00	<b>シンポジウム</b>  一般公開シンポジウム 「第5次環境基本計画の策定 等を踏まえた持続可能な開 発目標 (SDGs)の達成への取組と 環境研究からの貢献」  15:00~17:15				
15:15					
15:30					
15:45					
16:00					
16:15					
16:30					
16:45					
17:00					
17:15					
17:30					
17:45					
18:00		研究者交流会 (優秀ポスター発表等)  17:30~19:00			
18:15					
18:30					
18:45					

## ＜企画セッション・プログラム＞

企画セッション	開催時間	会場	タイトル
①	11:00~12:30	A会場	再生エネルギー100%社会の実現に向けてー世界の動向と日本の取り組みー
②	13:15~14:45	A会場	SDGsの地域社会との接合可能性を探るーマルチステイクホルダー・パートナーシップの観点からー
③	11:00~12:30	D会場	海洋資源開発における海洋環境影響評価
④	13:15~14:45	D会場	アジア地域の持続可能な社会形成の法政策制度とその社会実装に向けてーCCSを事例としてー

### 企画セッション

①

## 再生エネルギー100%社会の実現に向けて ー世界の動向と日本の取り組みー

**【趣旨】**再生エネルギー100%（以下、RE100）は世界的な広がりを見せている。国際環境NPO「The Climate Group」が立ち上げた「RE100」には多くのグローバル企業・組織が参加を表明し、長野県のような地方自治体も地域一体となって自然エネルギーの導入やそれによる社会経済の活性化を行っている。日本で最初に自然エネルギー100%大学を宣言した千葉商科大学は、「商いの力」によるRE100を目指し、学生を巻き込んだ省エネ活動や教育、適切な行動選択のためのハートウエア醸成、地域社会への展開などを実施している。本セッションでは、各々の分野で活躍する識者がRE100における世界動向や、日本での取組事例を紹介し、RE100推進にあたっての課題や効果、今後の展望などについて議論する。

#### 企画責任者

(主)原科幸彦(千葉商科大学)・(副)橋本隆子(千葉商科大学)

#### 発表者・ 発表テーマ

1. 吉原 毅(城南信用金庫):「RE100の地域経済効果」(20分)
2. 原科幸彦(千葉商科大学)・高橋百合子(千葉商科大学)・手嶋進(CUCエネルギー株式会社):「RE100の先駆け、千葉商科大学」(20分)
3. 大野輝之(公益財団法人自然エネルギー財団):「RE100運動の世界での展開」(20分)

#### その他

以上3題の発表後、まず予定討論者、笹谷秀光氏(CSR/SDGコンサルタント)のコメントを受け、パネル討論を30分ほど行う。討論ではフロアからの発言も受け、討論する。また、冒頭で、企画責任者(副)の橋本隆子が、本セッションの趣旨説明を行う。

### 企画セッション

②

## SDGsの地域社会との接合可能性を探る ーマルチステイクホルダー・パートナーシップの観点からー

**【趣旨】**2015年に国連で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」と「持続可能な開発目標(SDGs)」は、社会的な認知を高める段階から、いかに社会実装していくかという段階に入っている。とくに国レベルでの対応から、地域社会とSDGsの接合を具体的に進めていくことが重要な課題である。本セッションでは、SDGsの総合的もしくは概略的な解説ではなく、主に環境分野での具体的な取組事例をつづじて、行政・企業・NPO・大学等のマルチステイクホルダーによる協働の観点から、SDGsと地域社会の接合可能性について検討する。とくに、環境分野での協働取組による各ゴールの同時解決の可能性や、それによってもたらされるトレード・オフについて議論したい。

#### 企画責任者

(主)石井雅章(神田外語大学准教授)・(副)村松陸雄(武蔵野大学教授)

#### 発表者・ 発表テーマ

1. 村松陸雄(武蔵野大学教授):「本セッションの目的と背景」(10分)
2. 滝口直樹(武蔵野大学客員准教授/合同会社環境活動支援工房代表社員、元環境省職員):「SDGsとローカルアジェンダ21」(15分)
3. 高橋朝美(一般社団法人環境パートナーシップ会議/関東EPO担当):「地域の課題解決のための協働取組とSDGsーいくつかの環境省事業からの視点」(15分)
4. 村山史世(麻布大学生命・環境科学部専任講師/武蔵野大学客員准教授):「水源地での取り組みから考えるSDGsと地域社会の接合」(15分)
5. 長岡素彦(一般社団法人地域連携プラットフォーム代表理事):「市民社会から考えるSDGsと地域社会との接合」(15分)
6. 石井雅章(神田外語大学准教授):「企業によるSDGsの取り組みと地域社会との接合」(15分)

## 【趣 旨】

日本では最近、海洋鉱物資源の探査と開発に向けた技術開発が進められている。そのような探査・開発と海洋環境の保全と持続可能な利用（国連 SDGs14）の両立を図るため、海洋環境影響評価が重要となり、その手法の標準化が国際的に進められようとしており、研究が進められている。このセッションでは、このような動向を踏まえ、海洋環境影響の評価方法及びそのための海洋環境観測方法の最新の研究成果及び動向に関する発表を行い、情報交換を行う。

## 企画責任者

(主) 吉田 公一 (横浜国立大学大学院 都市イノベーション研究院)  
(副) 中村由行 (横浜国立大学大学院 都市イノベーション研究院)

発表者・  
発表テーマ

1. 吉田公一 (横浜国立大学大学院)：海洋環境影響評価方法の国際標準化 (15分)
2. 山本啓之 (JAMSTEC), 三輪哲也 (JAMSTEC)：海洋調査観測技術の研究開発と環境影響評価への応用について (15分)
3. 青木望美 (横浜国立大学大学院), 柴田由紀枝 (横浜国立大学大学院), 島田克也 (日本環境アセスメント協会, いであ株式会社), 中田達也 (東京海洋大学大学院), 松田裕之 (横浜国立大学大学院)：海洋環境影響評価の推進に向けた法的検討 (15分)
4. 柴田由紀枝 (横浜国立大学大学院), 藤倉克則 (JAMSTEC), 松田裕之 (横浜国立大学大学院)：深海生態系のリスク管理に関する一提案 (15分)

## その他

発表の後に、これらの発表及び関連する技術に関して、海洋資源開発における海洋環境影響評価方法及び海洋環境状況把握方法に関して、討議を行います。

## 【趣 旨】

アジア域の中核都市において今後必要となる経済成長や最終消費財・サービスの需要を満たしながら、GHG 排出量、環境汚染物質の大規模削減を同時に実現する持続可能な社会へと移行させ、更にその移行に必要な環境技術のイノベーション創出が惹起する法規制・政策及び国際的協定などの社会制度について議論を行う。具体的には、アジア域内の潜在的貯留量が大きく、今後大規模削減技術として有望である二酸化炭素回収貯留 (CCS) を事例に、アジア域で CCS の導入・普及を図る諸国の法整備や二・多国間の共同実施で必要となる協定・共通ルールのあり方に関する報告を行い、低環境負荷型社会への移行シナリオについて議論する。

## 企画責任者

(主) 柳 憲一郎 (明治大学 法学部専任教授)  
(副) 小松 英司 (明治大学 環境法センター専門研究員)

発表者・  
発表テーマ

1. 柳 憲一郎・明治大学法学部専任教授：「CCS の包括的な法政策」(20分)
2. 大塚 直・早稲田大学法学部教授：「日本における CCS 基本法」(20分)
3. 岡松暁子・法政大学人間環境学部教授：「温暖化対策のための国際協定」(20分)
4. 小松英司・明治大学環境法センター専門研究員：「CCS の普及導入政策とシナリオ」(20分)
5. 質疑応答 (10分)

## その他

この企画セッションは、環境省環境研究総合推進費「二酸化炭素回収・貯留 (CCS) の導入・普及の法的枠組みと政策戦略に関する研究」及び科研費基盤 B (17H04488)「アジア太平洋地域における地域・特性に適した CCS 包括的法規制の構築に関する研究」等の研究成果に基づき企画したものである。